

『怒りを力に ACT UPの歴史』

上映&トーク

■映画『怒りを力に —ACT UP の歴史—』

(ジム・ハバード監督／米国／日本語字幕／2012／93分)

ACT UPの活動を記録した映像から米国のHIV/AIDS運動の歴史をたどる。

HIV/AIDSの時代を生き抜くために、人種や階級、ジェンダーの枠を超えて力を合わせ社会の変革に挑んだ人々。ACT UPの非暴力抵抗運動は、AIDS/HIV危機にある米国政府やマスメディアを動かした。

このドキュメンタリーは、大切な人を失う哀しみを育み、人とのつながりの中で生きる力を持ち、セクシーでエネルギッシュなACT UPの姿を映し出す。



■招聘ゲスト



■ジム・ハバード Jim Hubbard (監督)

映画監督。ACT UPオーラルヒストリープロジェクトを展開中。作品に、Elegy in the Streets (1989), Two Marches (1991), The Dance (1992) and Memento Mori (1995) など。作品は、ニューヨーク近代美術館、ベルリン国際映画祭、ロンドン映画祭、ニューヨーク・サンフランシスコ・ロサンゼルス・東京・ロンドン・トロントなどのレズビアン&ゲイ映画祭で上映されている。『怒りを力に』は、2013年ムンバイ国際クィア映画祭でOfficial Selectionに選ばれた他、アメリカをはじめ、南米、欧州、南アフリカやパレスチナ、イスラエル、インドなどでも上映されている。



■サラ・シュルマン Sarah Schulman (プロデューサー)

ニューヨーク市立大学人文学部教員・小説家・活動家。翻訳本に『ドロレスじゃないと。』(落石八月月訳、マガジンハウス刊、1990年刊)。その他の作品に、THE GENTRIFICATION OF THE MIND : Witness to a Lost Imagination (U of Cal Press), TIES THAT BIND: Familial Homophobia and Its Consequences (The New Press)、小説にTHE MERE FUTURE (Arsenal Pulp Press.)がある。80年代にACT UPの活動に参加。同時に、現在行われているACT UPオーラルヒストリープロジェクトの共同主宰者。NY LGBT Experimental Film and Video Festival共同創設者。

来聴歓迎
予約不要

日時： 12月 10日(水) 18:30-20:30

会場： 志高館 SK110教室

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp